

4-1-17 薬剤部

1. 概要、特色

薬剤部では、当センターの特色であるIT化における機器を積極的に活用し、薬歴データベースの構築とリスクマネジメントに大きく関与している。

新たな業務として平成17年10月から「妊娠と薬情報センター事業」が開始され、まずは世田谷区限定で開始されたが、18年2月には東京都全域及び神奈川県に拡大し相談業務を行っている。

また、これまで5年間継続してきた小児用医薬品の適応外使用の改善と小児治験の推進を目的とした多施設共同研究の成果が評価され、17年度から厚生労働省の新規事業「小児薬物療法根拠収集事業」を当センターを中心に開始され、薬剤部は成育医療で使用される医薬品の適正使用に対する情報収集及び情報発信に積極的に関わっている。

1) 薬歴データベースは、従来から行われていた処方歴の蓄積ではなく、患者様へ実際に医薬品が投与された際に記録される実施歴を蓄積している。これは、将来疫学調査等による小児薬用量の設定や妊婦・授乳婦への医薬品の投与歴からの安全性情報の収集に活用が期待されている。

17年度には薬歴データベースのバージョンアップを図り、これまでデータ検索及び処理に相当な時間を要していたが、今後は小児薬用量の使用実態など疫学的及び薬剤管理上貴重なデータを抽出可能となり、臨床的にも経営的にも有効利用できるようになっている。

2) リスクマネジメントでは、薬剤部にて調剤を行った医薬品に対してバーコードを付与することにより、患者様への誤投与防止に役立っている。原則的に持ち込み薬についても薬剤部が関与することでバーコードを付与して病棟での認証可能な状態にしている。

3) 医薬品情報管理業務としては、特に周産期・小児の薬物療法の情報収集に取り組み、公表されている最新の学術文献をベースに医薬品情報を提供している。その情報を基に平成15年11月より周産期診療部との協力で、「妊娠・授乳と薬」相談外来を開設し、薬剤師もスタッフとして外来に参加し、患者様から好評を得ている。医薬品を妊娠中に服用した場合の胎児への影響については、現時点では十分な臨床情報は蓄積されておらず、また情報を体系的に活用できる体制になっていない。服用中に予期せず妊娠した場合、中絶が行われたり、妊娠中適切な医療を受ける機会を逸することがあるため、情報の収集及び情報提供の改善が求められており、17年10月より当センターに「妊娠と薬情報センター」が設置され、正確な情報提供及び出産後情報の収集が開始されている。

4) 当センター薬剤部を中心とする多施設共同研究として、小児科領域における薬物療法の適正化を目指し、医薬品適応外使用の改善及び小児科領域の治験・臨床試験の推進に向けて小児薬物療法ネットワークを利用した適応外使用医薬品実態調査、小児領域の治験実施状況調査及び小児に関わる添付文書記載のあり方の調査など実施し、規制当局及び製薬企業に問題提起を行っている。

2. 平成17年度薬剤部員の異動

薬剤部長：櫛田賢次

副薬剤部長：関口英之

主任薬剤師：石川洋一、相良眞一、川島昌美、松倉範明、筒井秀知、坂本治彦

薬剤師：三富玲、中島研、富澤宣明、八代智子、斉藤正之

賃金薬剤師：深田暁子、石井真理子

非常勤薬剤師：山下和也、熊田稚子、浅川 淳

薬剤助手：関根純子

< 転入 >

櫛田賢次（17.4.1～ 医薬品医療機器総合機構より転入）

八代智子（17.4.1～ 独立行政法人国立病院機構 栃木病院より転入）

関口英之 (17.9.1 ~ 独立行政法人国立病院機構霞ヶ浦医療センターより転入)

<採用>

浅川 淳 (17.8.1 ~ 非常勤薬剤師採用)

斉藤正之 (18.2.1 ~ 薬剤師採用)

<転出>

伊藤 博 (17.4.1 ~ 独立行政法人国立病院機構 相模原病院へ転出)

石郷岡均 (17.4.1 ~ 国立精神・神経センター国府台病院へ転出)

飯島道生 (17.9.1 ~ 独立行政法人国立病院機構 茨城東病院へ転出)

<退職>

比留間康二郎 (17.8.31 薬剤師、退職)

大月 遊 (17.10.31 薬剤師、退職)

林希実子 (18.1.31 薬剤師、退職)

川島昌美 (18.3.31 主任薬剤師、退職)

3. 平成 17 年度業務実績

平成 17 年度業務実績

- 1) 処方せん枚数：入院 78,172 枚、外来院内 19,328 枚、外来院外 76,575 枚
 - 2) 注射処方せん枚数：入院：239,520 枚、外来 25,710 枚
 - 3) 薬剤管理指導：実施患者数 1,142 人、請求件数 449 件、退院時服薬指導加算 264 件
 - 4) 薬剤情報提供：10,373 件
 - 5) 院内製剤加算：実施件数 986 件、請求件数 366 件
 - 6) 無菌製剤加算：実施件数 15,775 件 (IVH8,984 件、抗悪性腫瘍 0 件)、請求件数 5,721 件
 - 7) 注射薬混注件数：6,791 件
 - 8) 医薬品安全性情報報告件数：0 件
 - 9) 院外処方せん発行率：79.8%
- 1) ~ 8)は H17.4 ~ H18.3 の合計、9)は H17.4 ~ H18.3 の平均

4. 薬剤部にて実施した研修および勉強会

薬剤部では、月 2 回、木曜日の 17 時 30 分より約 1 時間、薬剤部員の研鑽と資質向上を目的として勉強会を開催している。

<平成 17 年度の開催実績>

開催回数：20 回、演題：20 題 (内訳は、製品概要説明会 6 回、治験説明会 3 回、臨床・学術勉強会 6 回、学会向け予演会 1 回、その他 4 回) となっている。

5. 薬剤部員による研修等の講演

<院外>

1. 榎田賢次：薬剤部門管理について． 病院管理研修(事務長コース) 国立保健医療科学院主催、2005.6.14
2. 榎田賢次：経営的側面から見た薬剤管理． 病院管理研修(薬剤部長コース) 国立保健医療科学院主催、2005.8.4
3. 榎田賢次：小児における薬理． 小児救急看護セミナー、社団法人日本看護協会主催、2005.7.28
4. 石川洋一：治験に関する最新の話 電子カルテと C R F ．社団法人日本病院薬剤師会 薬剤師治験コーディネーター養成研修会、2005.8.23
5. 石川洋一：電子カルテと C R F 作成． 平成 17 年度国公立大学病院治験コーディネーター養

成研修 2005.7.1

6. 石川洋一：小児薬物療法データネットワーク薬剤師の取り組み． 第24回城南地区薬剤師セミナー、東京、2005.7.9
7. 石川洋一：電子カルテでの原資料閲覧における留意点 電子化する治験とモニタリング． 日本医療器材工業会 医療機器治験モニター及び直接閲覧を行う監査者育成のための研修会、2006.1.13、東京
8. 石川洋一：妊婦および小児に対する薬物療法の実際． 昭和大学大学院薬学研究科医療薬学専攻臨床薬理学特論、2005.6.18、東京
9. 中島 研：妊娠と薬情報センターの取り組み． 第34回JAPIC医薬情報講座、2006.3.3

<院内>

- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.4.8
- 飯島道生： 麻薬・向精神薬等の事故事例． 平成17年度第1回医療安全・感染対策研修会，国立成育医療センター，2005.4.18
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.5.6
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.6.2
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.7.1
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.8.2
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.9.5
- 筒井秀知： リスクマネジメントと医薬品． 平成17年度第5回医療安全研修会(看護部限定)，国立成育医療センター，2005.9.12
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.10.4
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.11.1
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2005.12.5
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2006.1.5
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2006.2.2
- 坂本治彦： 処方・注射オーダーと医薬品管理について． 平成17年度新採用者研修，国立成育医療センター，2006.3.2

6. 研究助成金による研究

1. 石川洋一(主任研究者)，加藤裕久(分担研究者)，榎田賢次(分担研究者)，中村秀文(分担研究者)，寺門浩之(分担研究者)，山口正和(分担研究者)：平成17年度 厚生労働科学研究費補助金 医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス総合研究事業「小児薬物療法におけるデータネットワークの実用性と応用可能性における研究」

2. 石川洋一（分担研究者） 木内貴弘（主任研究者・東大UMIN）：平成 17 年度 日本医師会治験研究促進センター治験推進研究事業「治験のIT化の現状と課題」

7. その他

1. 関口英之：インフルエンザの治療薬について．国立成育医療センター成育すこやかジャーナル 第 38 号，2005.12.19